



最初にお読みください

AT-TQ2403EX リリースノート

この度は、AT-TQ2403EX を買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.4.0

2 本バージョンで追加された項目

ファームウェアバージョン **3.3.0** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加されました。

- 2.1 「ステータス」 / 「WDS」画面を追加しました。これにより、WDS 接続の接続状態、接続相手のアクセスポイントの RSSI 信号強度 (Received Signal Strength Indication) を表示できるようになりました。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)

- 2.2 「セキュリティ」画面、「詳細設定」 / 「VWN」画面の「IEEE802.1x」「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」に次のキー更新間隔を設定する機能を追加しました。

(1) ブロードキャストキー更新間隔 (WPA のみ)、(2) キー更新間隔 (IEEE802.1x のみ)、(3) フレーム送受信数によるキー更新

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティ」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

3 本バージョンで仕様変更された項目

ファームウェアバージョン **3.3.0** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が仕様変更されました。

- 3.1 「保守管理」 / 「設定」画面の「バックアップ」で保存される設定ファイルの config version を変更しました。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.3.0** から **3.4.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 無線クライアントのローミングを知らせる L2 アップデートフレームのブロードキャストを受信すると、その処理過程でメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。

- 4.2 VWN 機能を有効にすると、クラスター機能が動作しないことがありますが、これを修正しました。
- 4.3 次の条件で WDS を構成すると、本製品を再起動したとき、WDS 接続ができなくなることがありますが、これを修正しました。
 - ・暗号化方式に WPA を使用
 - ・3 台以上の本製品で WDS を構成
 - ・1 台の本製品が他の 2 台以上の本製品に「WDS STA」として接続
- 4.4 VWN 機能が有効な状態で、MAC フィルタリングに 1024 件の無線クライアントを登録し、クラスター機能を有効にすると、無線クライアントのリストが約 900 件までしか同期しませんでした。これを修正しました。
- 4.5 「セキュリティ」画面の「モード」が「IEEE802.1x」または「WPA エンタープライズ」のとき、内蔵 RADIUS を使用するように設定すると、「クラスター」/「セッション」画面の「ユーザー」に「1」と表示されていましたが、正しいユーザー名を表示するように修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.4.0** には、以下の制限事項があります。

5.1 NAP (Network Access Protection)

NAP (Network Access Protection) 環境で無線クライアントから本製品に接続しているとき、ネットワーク障害や本製品の電源断などによる無線クライアントの切断が起きた場合、障害の復旧後に再度同じログイン名で接続を試みると RADIUS サーバー (Windows Server 2008) の認証に失敗します。Windows Server 2008 にドメイン名を含めた UserID を設定するとこの現象は発生しません。

5.2 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスの禁止」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。

5.3 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「パースト時の速度制限」に「速度制限」で設定した値以下の値を設定できてしまいます。

5.4 VWN

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「WPA エンタープライズ」と「ダイナミック VLAN」を併用している場合、無線クライアントに VLAN 間のローミングが発生すると無線クライアントとの接続が切断されます。無線クライアントが再接続するために無線クライアントは、アクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。

- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。
- (1) VWN のどれかを有効にして「VLAN ID」を設定した後、(2) その VWN の「VLAN ID」を別のものに変えてから、(3) 他の VWN に (1) で設定していた「VLAN ID」を設定しようとする「VLAN ID」が空欄となり設定できません。その場合は、設定できない VWN の「有効」のチェックをいったん外して「適用」ボタンをクリックし、再度チェックを入れてから設定してください。

5.5 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

本製品を新たにクラスタに追加する場合は、クラスタを開始していない状態でネットワークに接続してから「アクセスポイント」画面の「クラスタの開始」ボタンをクリックしてください。クラスタが開始された状態で、ネットワークに接続すると設定の共有が行われなくなることがあります。

5.6 セキュリティー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティー」](#)

- 「セキュリティー」画面や、「VWN」画面の各 VWN のセキュリティーの「IEEE802.1x」 「WPA エンタープライズ」において、RADIUS キー（プライマリー）を空欄に設定すると RADIUS サーバーへの問い合わせに「secret」を使用しますが、セカンダリーの RADIUS キーを空欄にすると「secret」が使用されません。
- 「セキュリティー」画面の「WPA パーソナル」または「WPA エンタープライズ」で WPA バージョンを「WPA2」「WPA」のいずれかまたは両方、暗号スイートを「CCMP (AES)」に設定すると、無線クライアントが本製品に接続してから 1 時間ほどで、その無線クライアントとの接続が切断されることがあります。無線クライアントが再接続するように、無線クライアントはアクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- 「セキュリティー」の「モード」を「WPA パーソナル」から「スタティック WEP」に変更し「適用」ボタンをクリックしてもその設定内容が動作に反映されません。「適用」ボタンのクリックにより画面が再表示された後、もう一度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより設定が動作に反映されます。
- 「セキュリティー」画面の「IEEE802.1x」の「キー更新間隔」の設定が適用されません。適用するには、本製品を再起動してください。

5.7 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)

Internet Explorer Version 8 の「最新の情報に更新」ボタンで「ステータス」 / 「WDS」画面を再読み込みすると、5 秒ごとの自動更新が行われなくなります。その場合は、Web 設定画面の「ステータス」 / 「WDS」メニューをクリックしてください。

5.8 イベント

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

DFS によるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がはいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

5.9 送信/受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信/受信」](#)

「送信/受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。

5.10 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。

5.11 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUCastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップします。

5.12 設定のリストアとバックアップ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- バックアップした設定ファイルをテキストエディターなどで編集した後、本製品にリストアしないでください。

5.13 ファームウェアのアップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

5.14 Web 設定画面

- 「無線」画面の「ステータス」ラジオボタンを「オン」→「オフ」→「オン」のように変えると、初期状態ではグレイアウトしていた「ブロードキャスト/マルチキャスト速度制限」の「速度制限」と「パースト時の速度制限」の入力フィールドが入力可能な状態に変わります。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「無線」

- 「イベント」画面の「ログのリレー」チェックボックスを有効にした後で無効にすると、入力可能だった「リレーホスト」と「リレーポート」フィールドがグレイアウトします。これらのフィールドに値を入力するときは、「ログのリレー」チェックボックスを有効にした状態で行ってください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「ステータス」 / 「イベント」

- VWNのセキュリティが「WPA エンタープライズ」の場合、「WPA バージョン」の「WPA」のみが有効となっているときに「WPA」のチェックを外すことによって自動的に「WPA2」が有効になると、「事前認証を有効にする」がグレイアウトして設定できなくなります。その場合は「WPA」「WPA2」の両方を有効にし、「事前認証を有効にする」の設定を変更してから「WPA バージョン」を設定してください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VWN」

- 「VWN」画面の各 VWN のセキュリティ「WPA エンタープライズ」で「事前認証を有効にする」を無効にすることができません。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VWN」

6 マニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001582 Rev.B）、ユーザーマニュアル（613-001576 Rev.A）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

